

# 平成14年度実施事業 詳細評価シート

担当部課	総務部情報管理課	直通電話	72-3159	事業コード	604030201	課内	14	作成日	平成15年8月25日
		担当者	青柳 実	担当課長	高野 省輝	担当部長	白井 俊		

## 1 事業のアウトライン

1) 事業名	統計書発行事務	開始年度	S61	終了年度	未定
		最近の事業内容見直し年度	H14		
2) 総合開発計画での事業体系	施策コード: 6040302 大項目 / 小項目 / 細項目 効率的な行政運営 / 事務改善の推進 / 計画的な行政運営の推進				
3) 個別計画での位置付け					

## 2 事業の内容

1) 事業の目的 何のために	石狩市に関連する統計資料等を求める人に提供できるようにする。
2) 目指す成果 何をどんな状態にする(何がどんな状態になる)ように	石狩市に関するなるべく新しい統計情報を自然・人口・経済・社会・文化等の分野別にまとめ求める人に提供できるようにする。
3) 事業の方法 どんな手段を講じるのか	各関係機関に石狩市に関する情報の提供を依頼し、収集した情報と各種統計調査結果を集計・整理・編集し提供できるようにする。 1) 行政資料室及び情報公開コーナーで自由に閲覧ができるようにしている。 2) 求める人に石狩市統計書を払出している。
4) 14年度に改善した事項、重点的に取り組んだ事項	平成15年4月1日からの統計書の有償化実施を検討した。
5) 事業の背景・社会状況・他の類似事業など	1) 統計書を廃止し変わって公式ホームページに掲載する市が増えてきている。また、統計書のCD化について検討しているところもある。 2) 石狩市勢要覧の資料編と一部重複しているところがある。
6) 事業の立案や実施などへの市民参加	特になし
7) 評価中間公表への市民意見	なし

## 3 事業に投入した行政資源

項 目	H12	H13	H14	H15 予算	H14事業費の主な内訳	金額(千円)	
1) 直接事業費(千円)	0	0	567	0	統計書発行経費(印刷製本費)	567	
2) その他の間接経費(千円)							
3) 従事正職員の人件費(千円)			2,471				
総事業費(1~3の合計;千円)			3,038		H14 主な特定財源の内訳	金額(千円)	
総事業費中の一般財源(千円)			3,038				
市民一人当たり一般財源使用額(円)			54				
事務に従事した正職員のべ人数			0.30人				

## 4 事業活動の結果

事業活動の結果を示す指標	H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法
統計書変更箇所数(頁)	目標値		未設定	0	【説明】 前回と同じ発行統計書の内変更のあった頁数 【目標】 指標の性格上設定できない
	実績値		22		
	達成率				
統計書の発行部数(部)	目標値		400	0	【説明】 前回発行部数 【目標】 予算書により設定
	実績値		400		
	達成率		100.0%		
	目標値				
	実績値				
	達成率				

## 5 事業の成果

事業名：統計書発行事務

事業の成果を示す指標		H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法	確認方法
払出した統計書の部数(部)	目標値	未設定	未設定	未設定	100	【説明】平成11年度版統計書は無償のため 【目標】平成14年度までは、無償のため目標を設定していない	受払い簿
	実績値	112	39	20	目標レベル		
	達成率						
	最終目標	平成17年度に		346			
	目標値						
	実績値				目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					
	目標値						
	実績値				目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					

## 6 事業の観点別評価

1) 事業活動の状況	【課長評価】	極めて良好	概ね良好	一部問題あり	大きな問題あり
【評価ポイント】 活動結果や活動効率、事業改善等の効果はどうだったか	統計書の作成は、職員の人件費と印刷製本費の最小コストで行えた。				
2) 有効性・必要性	【課長評価】	有効かつ必要	有効性に疑問あり	必要性に疑問あり	ともに疑問あり
【評価ポイント】 その事業は事業目的の達成に効果があるか、また、市民(対象者)に必要とされているか	統計資料をまとめたデータの継続性を保つことは必要であるが、過去の統計書払い出し部数の推移を見ると、次年度に集中していることから有効性に疑問がある。				
3) 市関与の妥当性	【課長評価】	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
【評価ポイント】 その事業に市が関与する必要があるか、市がどこまで関与するのが適当か	石狩市統計書のデータは、市の政策決定や各種事業の目標設定の基礎として利用されるという側面をもつことと、民間において、重複するような書籍の発行がないことから、市が作成するのが妥当である。				
4) 事業内容の妥当性	【課長評価】	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
【評価ポイント】 目指す成果を挙げるためには今の事業内容が適当か、受益と負担の関係に不公平はないか	求める人の要求にあった最新の統計資料を提供できるようにすることが必要であり、かつ、求める人がたやすく統計資料を手に入れることができる環境が必要である。				

## 7 平成14年度事業の総合評価

【評点の意味】 A: 極めて良好 B: 良好 C: 可も不可もない D: 問題がある E: 大きな問題がある	【課長評価】	D	【最終評価】	D (前年度)
	統計書の発行部数から見ると求める人へのPR等が必要である。また、統計書の発行形態を変更する必要あり。		課長評価を了承する。	

## 8 今後の方向性・課題

担当課長評価	受益者の拡大をめざし、例えばインターネットでの公開や新しい配布メディアの選択が必要である。
最終評価	課長評価を了承する。

## 9 平成16年度の方向性

事業規模	事業内容		
	現状維持	一部見直し	大幅見直し
拡大方向			
現状維持			
縮小方向	*		
統合			
休・廃止			
上についての説明	作成コストを見込まないことから予算の減		